

公開シンポジウム「分散型再生可能エネルギーの可能性と現実」

開催案内

1. 主催：日本学術会議 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共催：公益社団法人日本工学アカデミー 自然エネルギーのガバナンスプロジェクト
3. 後援：一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人物理探査学会、日本地熱学会、日本ヒートアイランド学会、一般社団法人日本風力エネルギー学会、一般社団法人日本太陽エネルギー学会
4. 日時：平成29年2月24日（金）13:00-17:00
5. 場所：日本学術会議 講堂
6. 開催趣旨：

我が国には、全電力需要だけでなくエネルギー消費量全体にも匹敵する量の再生可能エネルギーが存在するとの意見がある。石油、天然ガス、石炭といった化石燃料に大きく頼っている日本において、再生可能エネルギーの活用はエネルギーの多様化、安全保障、さらには分散型社会に繋がる。しかしその有効利用には、エネルギー変換技術やエネルギー収支比などによる評価といった技術、電力網などのインフラ、電力買取制度などの制度について、地域に密着したガバナンスが重要となる。

このシンポジウムでは、風力、太陽光、地熱、地中熱、バイオマス、小水力などの分散型再生可能エネルギー開発の成功例、失敗例を挙げ、メリット・デメリットを整理し、開発促進に繋がるガバナンスのあり方を考える。

7. 次第：

講演（13：00－15：30）

趣旨説明

佃 栄吉（産業技術総合研究所理事）

東日本大震災復興支援委員会の活動について

太田 健一郎（横浜国立大学名誉教授）

福島における再生可能エネルギー開発への取り組み

大和田野 芳郎（産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所所長）

地域コミュニティにおける地中熱利用

笹田 政克（地中熱利用促進協会理事長）

種子島におけるバイオマスエネルギー開発の取り組み

福島 康裕（東北大学大学院工学研究科化学工学専攻准教授）

山梨県における小水力発電モデル事業など

坂本 正樹（山梨県企業局電気課主査）

東近江におけるエネルギーパーク

山口 美知子（東近江市市民環境部森と水政策課課長補佐）

休憩（15：30－15：45）

討論（15：45－17：00）

分散型再生可能エネルギーの開発促進を考える

司会：大久保 泰邦（宇宙システム開発利用推進機構技術参与）

パネリスト：太田 健一郎、大和田野 芳郎、北川 尚美（東北大学大学院工学研究科化学工学専攻准教授）、笹田 政克、山地 憲治（地球環境産業技術研究機構理事・研究所長）